

令和7年度 大阪府立高槻支援学校 第2回 学校運営協議会議事録

校名	府立 高槻支援学校
校長名	赤木 瑞枝

開催日時	令和 8年 2月 10日(火) 10:00 ~ 11:30
開催場所	本校図書室
出席者(委員)	閑喜 美史(会長)、岡田 由紀(副会長)、 登田 悠紀、鳥山 茂、成瀬 修
出席者(学校・事務局)	赤木校長、寺浦事務長、矢田教頭、東教頭、東郷首席、奥平首席、田中良平進路指導主事
傍聴者	なし
協議資料	次第、学校運営協議会実施要項、令和7年度学校経営計画及び評価、 令和8年度学校経営計画、学校教育自己診断アンケート集約、高3進路指導状況一覧
備考	

議題等(次第順)

- 校長あいさつ
- 事務局からの報告事項
  - 保護者からの意見について
  - 高等部3年生の進路指導状況について
  - 令和7年度学校教育自己診断のアンケート集計結果
  - 令和7年度の学校経営計画の自己評価について
  - 令和8年度の学校経営計画について
- 校長あいさつ

協議内容・承認事項等(意見の概要)

上記について報告等をおこない、各委員から次のような質問・意見等をいただいた。  
 ・報告 ( ): 回答 →: 質問、ご意見

①保護者からの意見書については提出なし。

②高等部3年生の進路指導状況について(進路指導主事より)  
 ・今年度の3年生の進路状況を報告した。  
 ・今年度の秋から始まった就労選択支援事業は、3年生2名、2年生10名の利用があった。  
 →新たな事業ということで、会議の回数が増えるなどの変化は？  
 (会議がとて増えるので、すべての会議ということではなく、話し合いをして会議の回数については調整を行ったので、教員は旧制度の時と変わらない。一方で保護者さまの出席の必要性は2~3倍増えたと感じる。)

③学校教育自己診断アンケート集計結果(校長より)  
 ・保護者の回収率が減少している点については、次年度は期間の延長やリマインドメール等での呼びかけを行うことで改善したい。  
 ・昨年度、肯定的回答が90%以上が5項目であったが今年度は減少。80%以上の回答については、学校の教育活動を概ね肯定的に捉えていると感じている。  
 ・保護者の回答で肯定的評価が下がっている3項目について、改めて子どもたちの障がいを理解し、どのような支援をしていくことで行動変容を起こしたり、より楽しくより幸せに生活していけるか学びを深めていけるかについて考えを深めていく必要がある。  
 ・将来の進路についての質問には、保護者の回答で「わからない」が20%を超えている。学部別では小学部が一番高い。質問の文言を変えてわかりやすくするように工夫していく。  
 ・教員のみへの設問の中に「カウンセリングマインド」という文言がある。「わからない」回答が10%を超えている。「傾聴・受容・共感の姿勢で…」等、より具体的な言葉で伝えていく必要がある。  
 →いじめに関する質問での「わからない」は、いじめがあるかないか、わが子がいじめられたことがあるかないか等、いろいろな意味での「わからない」がある。「知らない」「考えることが難しい」「言い切れるわけではない」など、「わからない」の幅が広い。設問の内容をより具体的にすると答えやすくなるのでは。  
 →学校全体としての意識というのは、教員一人一人が具体的な目標をもって取り組んでいく必要がある。

④令和7年度学校経営計画の自己評価について(校長より)  
 ・地域支援の部分で強度行動障がいコンサルテーションを受けることとなった。対象児童に限られているため、アセスメントや助言について周知できるように支援についてナビセンターだよりを活用。  
 ・学校行事の運動会の開催方法についてはさまざまな意見をいただいているが、唯一の全校行事であり、子どもたちの少し先の姿を、子どもたち、保護者の方、教職員に見てほしいという思いをもって全校開催をしている。  
 ・働き方改革としては、学校全体として取り組みが十分ではなかった。  
 ・学部間交流はキャリア教育推進委員会を中心にすすめることができた。高槻市福祉展、ふれあい冬まつりなどは事前の打ち合わせから高等部生徒が参画して意欲的に取り組んだ。  
 →働き方改革について、十分でなかったという点については受け止めつつ、一方で保護者や子どもたちに対し、学校として教員が一緒になって対応していくということができたのではないと思う。

⑤令和8年度学校経営計画について(校長より)  
 ・令和8年度から3年間で専門家の助言を受けながら、学校全体でスクールワイドポジティブ行動支援に取り組もうと考えている。教育自己診断の新規項目として「教職員が子どもの人権に配慮した言葉や態度で支援、指導を行っている」という項目を掲げ、肯定的評価90%以上をめざす。  
 ・文科省、大阪府から働き方改革について指標があるため、新たに項目を別立てしている。  
 ・スクールワイドPBSを進めるチームをつくる。従来、専門性向上で実施している研修をこの方向にかえていく、人権必修研修の中で取り入れるといった形で、新たに何かを増やすのではなく、今ある形の中で進める。協議会や学校ブログ等で報告もしていく。  
 ・子どもたちにとって安心安全な学びの場であるとともに、教職員にとってもハラスメントのない安心安全な場ができる体制作りということも目標にしている。  
 ・引継ぎ訓練については令和9年度に向けて反省を踏まえ、再構築。福祉避難所に向けての取り組み、さくら連絡網を使用した安否確認訓練(メール)の実施を検討中。  
 ・キャリア教育の部分で、卒業後1年後の定着率について事業所等の変更があった場合でも、関係機関と連携をして見守っていく。  
 →ポジティブ行動支援についてももう少し知りたい。  
 (児童生徒の問題行動に着目するのではなく、強みに着目。問題行動の理由についての共通認識を高める。個別スケジュールやPECSを用いて、見通しをもてるようにしたり、表出を促したりするなど。)  
 →否定的にとらえるのではなく、子どもにとって肯定的な支援。まず教員が肯定的な取り組みが必要。体験的な研修になるだろうと思う。  
 →支援者のスキルはあるけれども、支援者と利用者さんの信頼関係が築けていないままスキルだけにとらわれてしまうということがある。そのあたりは気を付けて関係づくりをしてほしい。  
 →地域の中学校との交流についてありがたいと思う。地域の中での学びも多くあると思うので、次年度も引き続き取り組んでほしい。教員も持ち味を生かして生き生きと活躍できる場であることが児童生徒にとっても大事である。  
 ・令和8年度の学校経営計画(案)について承認をいただいた。

次回の会議日程

日時	未定
会場	本校図書室